

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	消防学校初任教育の所属実務研修中における熱中症
3. 体験した事例の中心的要素	①夏場に ②屋内で ③防火衣及び空気呼吸器を着装した状態で ④腕立て伏せやスクワット等を実施した
4. 体験した事例の原因・理由	同上

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年8月11日 午後4時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋内：車庫内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他:熱中症
7. 事例体験時の活動	その他:防火衣・空気呼吸器を着装して腕立て伏せ、[][]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：体力練成・測定訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[24]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[0] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [その他:初任教育中]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	空気呼吸器取扱訓練	
経過2	当事者A	応急はしご救助訓練	
経過3	当事者A	防火衣・空気呼吸器を着装した状態での 体力練成(腕立て伏せ、スクワット等)	
経過4	当事者A	防火衣・空気呼吸器を着装した状態で腕 立て伏せをしていたところ負傷(熱中症)	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	はい
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

疲れが抜けておらず、自分の体力の限界を見誤っていた。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

特になし。

○装備・資機材の対策について

セパレート式の防火服は安全面（火炎に対する）を重視しているが、長期の活動や激しい訓練等を行う場合は熱がこもり体力を奪う要因になるため、活動の際（特に夏場）は、着装の必要がなくなれば早期に防火服を脱ぐように気をつける等対策を取っている。

○活動環境の対策について

防火服を着装した夏場の火災現場や訓練等では熱中症の危険が高いため、余裕をもった体調管理をし、水分補給も出来るだけこまめに取るようにした。

○指揮・情報伝達の対策について

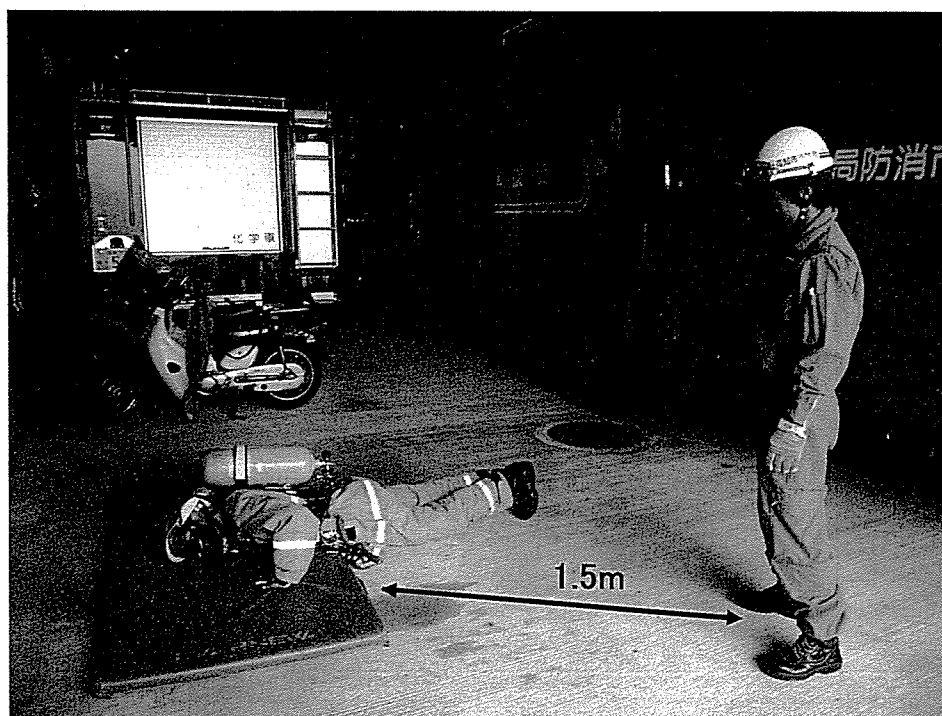
特になし。

発生状況及び現場見取図

災害発生状況図（発生状況をわかりやすく絵、又は写真で示してください。）



現場見取図（発生場所での被災職員、現認者、加害者等、人と物の位置関係を示してください。）



注 1 写真を使う場合は発生状況を再現する形で撮ってください。

2 経路図が必要なものは、既存の道路、住宅地図等を使用し、A4サイズで作成してください。
通過経路を赤実線で、発生場所を赤×印で、発生後の予定経路を赤点線で示してください。